

船舶事故調査報告書

平成22年12月2日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年8月18日 20時30分ごろ
発生場所	沖縄県粟国村粟国島灯台から真方位060° 2.2海里（M）付近 （概位 北緯26° 35.7′ 東経127° 14.8′）
事故調査の経過	平成21年8月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 徳信丸、4.9トン ON3-05527 個人所有 10.60m（Lr）×2.48m×1.00m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数90、平成2年5月
乗組員等に関する情報	船長 男性 63歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和58年11月21日 免許証交付日 平成20年11月20日 （平成25年11月20日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底に破口。リーフから引き出すことができず、解体された。
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員2人が乗り組み、船首約0.8m、船尾約1.5mの喫水で、いか漁のため、沖縄島をほぼ一周したが、いかに出会うことができず、夜間となったので、根拠地である名護漁港への帰航をとり止めて、粟国漁港に入航することにした。 船長は、リーフを掘削して設けられた粟国漁港入り口の水路の北東1.5M付近で、水路に沿うよう針路をおおむね234°とし、約3ノットの対地速力で航行し、サーチライトを点け、水路入り口の紅立標と港口の紅立標を目標にして水路に入り、やがて港口の紅立標だけを照らして航行するようになったが、平成21年8月18日20時30分ごろリーフに乗り揚げた。 乗組員は、入港中の本船を岸壁で見ていた島民に救助された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 北東 平均風速4.2m/s、視界 良好 海象：下げ潮の中央期
その他の事項	粟国漁港への水路は、幅約30m、深さ約3m、長さ約550mで、港内に向かって水路入り口の右側に紅立標、左側に緑立標、港口の右側に紅立標が設置されている。 地元の漁協担当者によれば、立標は夜間に点灯するものではないこと

	<p>から、夜間の入航は危険で、また、同水路は、風潮の影響を受けやすいところである。</p> <p>船長は、事故発生前の7月中旬ごろの昼間に粟国漁港に入航した経験があったことから、夜間でも立標に沿って航行すれば安全に入航できると思い込み、リーフとの距離を確認しなかったため、北東の風で水路の左側に圧流されていることに気付かず、同リーフに乗り揚げたものと考えられる。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、粟国漁港に入航中、船長が、昼間に粟国漁港に入航した経験があったことから、夜間でも立標に沿って航行すれば安全に入航できると思い込み、北東の風で水路の左側に圧流されていることに気付かず、リーフに乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、夜間、粟国漁港へ入航中、船長が、立標に沿って航行すれば安全に入航できるものと思い込み、リーフとの距離を確認しなかったため、同リーフに乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	